

中央区内景气动向调查

平成 19 年 8 月調査結果

平成 19 年 9 月 7 日

中央区

総 括

平成 19 年 8 月の動き

中央区内における 8 月の現状判断 D I は合計で 50.0 と、前回調査から 2.0 ポイント低下したものの、平成 17 年 10 月調査以降引き続き横ばいを示す 50.0 以上の水準を維持する結果となっている。景気の先行き判断 D I は前回調査からは 1.0 ポイント上昇し、50.0 となっている。

図表 景気の現状判断 D I、先行き判断 D I（合計）

(D I)	平成19年			前回調査 からの変化
	4 月	6 月	8 月	
合計				
現状判断 D I	55.2	52.0	50.0	(-2.0)
先行き判断 D I	53.6	49.0	50.0	(1.0)

目 次

調査の概要	1 頁
調査結果	
1 景気の現状に対する判断	2 頁
2 景気の先行きに対する判断	3 頁
3 現在の景気水準に対する判断（参考）	4 頁
4 判断理由	
(1) 景気の現状に対する判断理由着目点	5 頁
(2) 景気の現状に対する判断理由	6 頁
(3) 景気の先行きに対する判断理由	8 頁
（別紙）調査客体の分野・業種別人数構成	10 頁
中央区内景気動向調査 調査票	11 頁
(1) 家計動向関連	
(2) 企業動向関連	

調査の概要

1 調査の目的

中央区内において景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々の協力を得て、地域の景気動向を迅速かつ的確に把握し、効果的な施策を実施するための基礎資料とすることを目的とする。

2 調査の客体

中央区内の家計動向関連、企業動向関連で、代表的な経済活動の動向を敏感に反映する現象を観察できる業種において、適当な職種の中から選定した 50 人を調査客体とする。調査客体の分野・業種別人数構成については、別紙を参照のこと。

3 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
- (2) (1) の理由
- (3) (2) の追加説明及び具体的状況の説明
- (4) 景気の先行きに対する判断（方向性）
- (5) (4) の理由
- (参考) 景気の現状に対する判断（水準）

4 調査月及び調査期間等

調査月は年 6 回の隔月に当月時点で実施、調査期間は調査月の中旬約 1 週間で、平成 19 年 8 月調査の調査票発送は 8 月 8 日（水）、回答期限は 8 月 17 日（金）である。

5 調査機関

本調査は中央区が主管し、委託先である財団法人日本経済研究所を取りまとめ調査機関として実施したものである。

6 有効回答率

調査客体 50 名に対し、有効回答客体は 49 名、有効回答率は 98.0%であった。

7 DI の算出方法

景気の現状、または、景気の先行きに対する 5 段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これらを各回答区分の構成比（%）に乗じて、DI を算出している。

評価	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
	良くなる (良い)	やや良くなる (やや良い)	変わらない (どちらとも いえない)	やや悪くなる (やや悪い)	悪くなる (悪い)
点数	+ 1	+ 0 . 7 5	+ 0 . 5	+ 0 . 2 5	0

1 景気の現状に対する判断

3か月前と比較しての中央区内における現状判断DIは合計で50.0と、前回調査から2.0ポイント低下したものの、平成17年10月調査以降引き続き横ばいを示す50.0以上の水準を維持する結果となっている。分野別にみると、家計動向関連DIは6.3ポイント低下し、平成17年2月調査以来の50.0を下回る結果となっている。企業動向関連DIは2.0ポイント上昇している。構成比では、「変わらない」、「やや悪くなっている」と回答する人の割合が増加している。

図表1-1 各分野における景気の現状判断DIの推移表

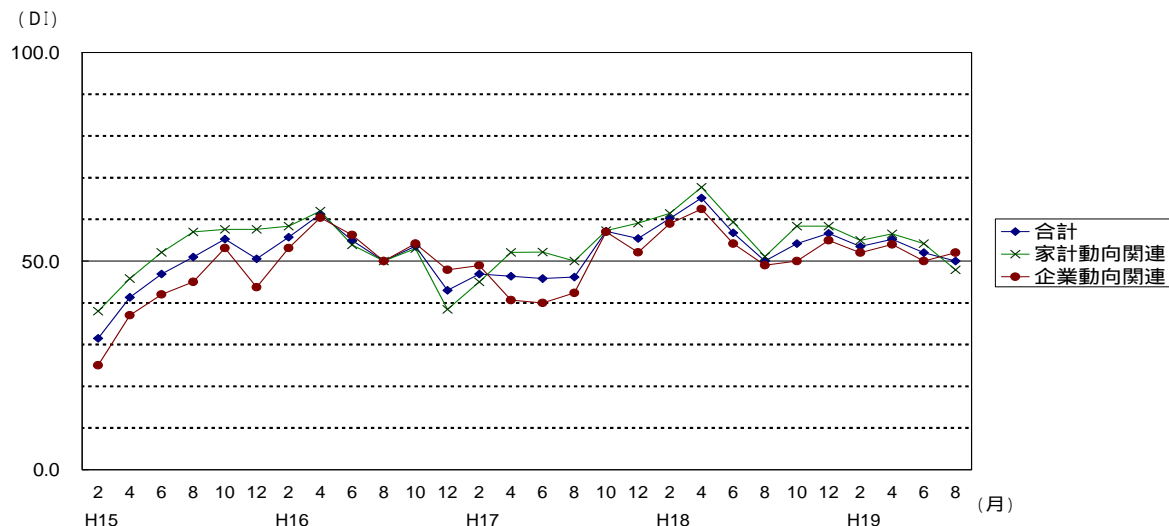
(DI)	平成19年			
	4月	6月	8月	(変化幅)
合計	55.2	52.0	50.0	(-2.0)
家計動向関連	56.5	54.2	47.9	(-6.3)
小売関連	50.0	56.3	48.1	(-8.2)
飲食関連	-	-	-	(-)
サービス関連	62.5	42.9	45.8	(2.9)
住宅関連	-	-	-	(-)
企業動向関連	54.0	50.0	52.0	(2.0)
製造業	50.0	50.0	58.3	(8.3)
非製造業	55.3	50.0	50.0	(0.0)

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

図表1-2 構成比

年	月	良く	やや良く	変わらない	やや悪く	悪く
		なっている	なっている		なっている	なっている
平成19年	4	0.0%	33.3%	54.2%	12.5%	0.0%
	6	0.0%	32.7%	46.9%	16.3%	4.1%
	8	0.0%	24.5%	53.1%	20.4%	2.0%
(変化幅)		(0.0)	(-8.2)	(6.2)	(4.1)	(-2.1)

図表1-3 各分野における景気の現状判断DIの推移



2 景気の先行きに対する判断

2～3か月先の中央区内における景気の先行き判断DIは前回調査からは1.0ポイント上昇し、50.0となっている。分野別にみると、家計動向関連DIは前回調査から2.1ポイント上昇、企業動向関連DIは横ばいとなっている。構成比では、「やや悪くなっている」と回答する人の割合が増加している。

図表2-1 各分野における景気の先行き判断DIの推移表

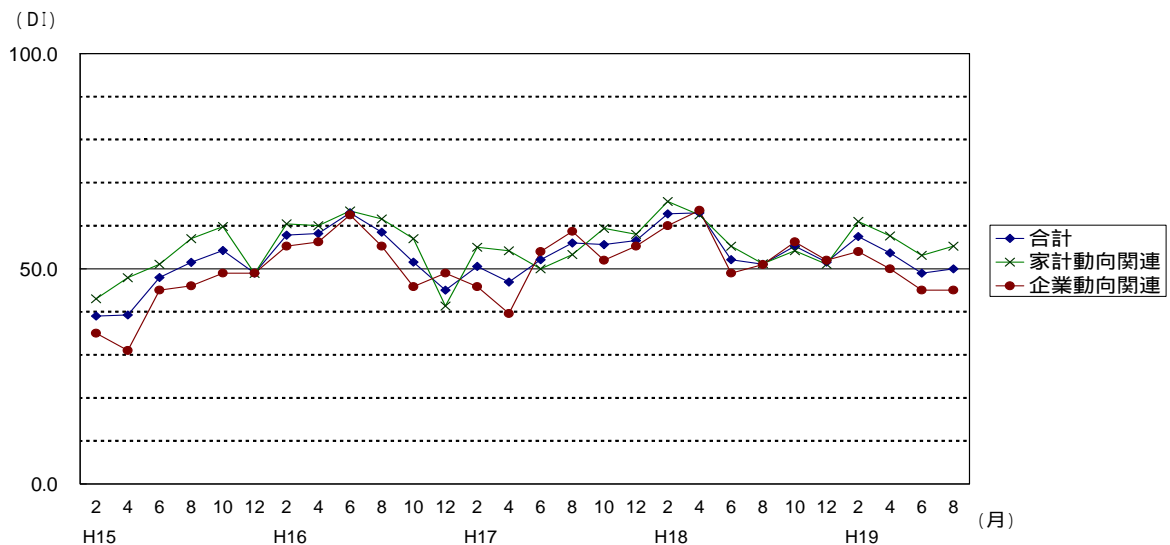
(DI)	平成19年			
	4月	6月	8月	(変化幅)
合計	53.6	49.0	50.0	(1.0)
家計動向関連	57.6	53.1	55.2	(2.1)
小売関連	56.3	54.2	57.7	(3.5)
飲食関連	-	-	-	(-)
サービス関連	58.3	46.4	54.2	(7.8)
住宅関連	-	-	-	(-)
企業動向関連	50.0	45.0	45.0	(0.0)
製造業	45.8	54.2	37.5	(-16.7)
非製造業	51.3	42.1	47.4	(5.3)

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

図表2-2 構成比

年	月	構成比				
		良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
平成19年	4	0.0%	22.9%	68.8%	8.3%	0.0%
	6	0.0%	22.4%	57.1%	14.3%	6.1%
	8	2.0%	22.4%	49.0%	26.5%	0.0%
(変化幅)		(2.0)	(0.0)	(-8.1)	(12.2)	(-6.1)

図表2-3 各分野における景気の先行き判断DIの推移



3 現在の景気水準に対する判断（参考）

現在の景気的水準自体に対する判断は、以下のとおりであった（注）。

図表 3 - 1 各分野における景気の現状水準判断D Iの推移

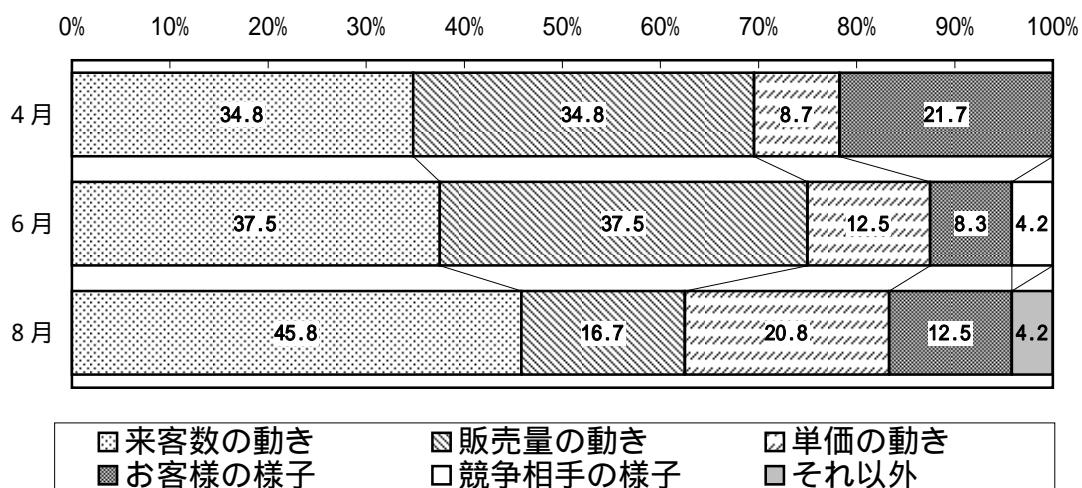
(D I)	平成19年		
	4月	6月	8月
合計	53.6	48.0	45.4
家計動向関連	62.0	52.1	49.0
小売関連	56.3	52.1	48.1
飲食関連	-	-	-
サービス関連	70.8	42.9	54.2
住宅関連	-	-	-
企業動向関連	46.0	44.0	42.0
製造業	45.8	45.8	45.8
非製造業	46.1	43.4	40.8

（備考）家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

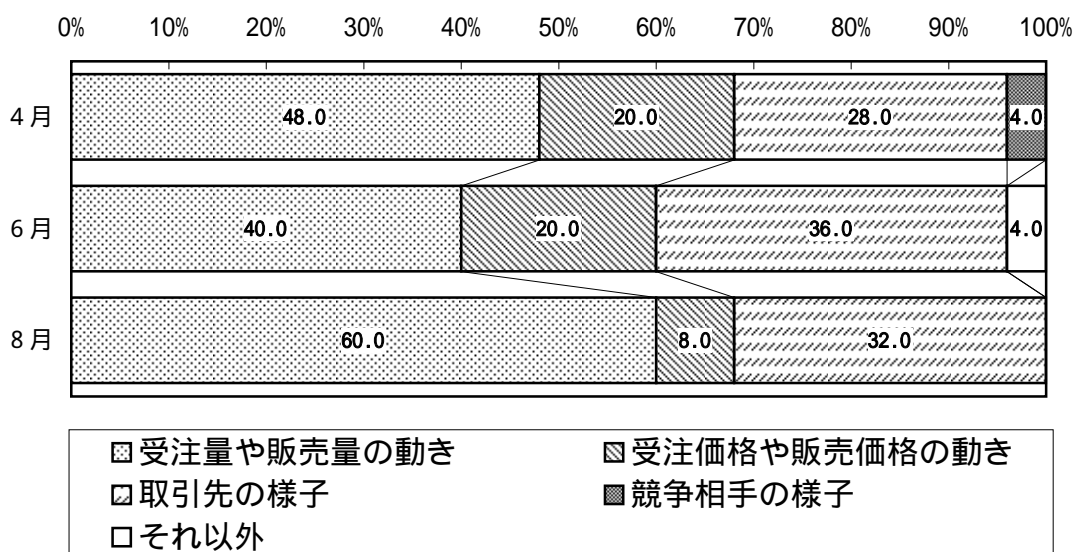
（注）景気の現状をとらえるには、景気の方角性に加えて、景気的水準自体について把握することも必要と考えられることから、参考までに掲載するものである。

4 (1) 景気の現状に対する判断理由着目点

家計動向関連



企業動向関連



注) 本グラフは景気の現状に対する判断理由着目点の構成比を示している。
割合が0%の場合、数値は表記していない。

4 (2) 景気の現状に対する判断理由

(- : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	スーパー(店長)	来客数の動き	・祭りや花火のイベントは昨年通り来客があった。
		コンビニ(店長)	単価の動き	・1人当たりの買上点数が増え、客単価の上昇につながっている。
		衣料品専門店(店長)	来客数の動き	・購入客、客単価、買上点数が継続して上がっている。8月は前半まで衣料のバーゲン品が売れるが、それを目当てに来店した客は決断が早い。「何かお金を使いたい」と衝動買いをする人も多い。
		高級レストラン(スタッフ)	単価の動き	・夏休みに入り、いつもの週末に比べてファミリー客が少なくなっているが、単価は全く落ちていないので、景気は悪くない。
	変わらない	百貨店(営業推進担当)	来客数の動き	・この3か月間は来客数が前年比100%を上回ることがなく、施策を講じても瞬間的な回復にとどまり、長続きしていない。
			百貨店(総務担当)	販売量の動き
		百貨店(広報担当)	単価の動き	・6月は久しぶりに査定をクリアするなど、業績が好調だったが、7月に入って売上が伸びなかった。天候不順などの影響もあると考えられるが、売上は安定していない。
		コンビニ(経営者)	単価の動き	・一部の 대기업で景気が良いだけで、庶民には行き届かない状況である。
		衣料品専門店(店長)	来客数の動き	・外国人観光客の売上は増加傾向にあるが、全体の来客数は横ばいである。
		高級レストラン(経営者)	来客数の動き	・中央卸売市場の買出人が減少しているように感じる。当店の客層は法人利用が個人利用を大幅に上回っている。カウンター席の利用客は少なく、予約も個室の座敷に集中している。テーブルでも仕切られたコーナーの要望が多くある。
		一般レストラン(経営者)	来客数の動き	・今のところ観光客の来客数が少し増えている。
		都市型ホテル(経営者)	来客数の動き	・全体的に景気が上向いているという実感が客から感じられない。
		都市型ホテル(広報担当)	それ以外	・通常はビジネス客が中心だが、夏休み期間中は客層が変わり、観光目的の家族客が中心である。特に外国人のビジネス客の姿が極端に少なくなっている。
		やや悪くなっている	一般小売店[靴](営業担当)	来客数の動き
	一般小売店[和菓子](経営者)		お客様の様子	・会社での利用客が減少している。
	百貨店(販売促進担当)		販売量の動き	・7月は寒く、8月が盛暑のため、夏物商戦、特にクリアランス時期の婦人、紳士用品の売上はもう一歩である。7月末の参議院選挙の影響もあり、中元商戦も厳しかった。
	スーパー(店長)		来客数の動き	・これだけ暑い日が続くと昼ごろの来客数がかなり減少し、売上も減ってしまっている。1日当たりでは200人前後の客数減である。食欲もかなりなくなっているようで、食料品をメインで扱っている我々にとってはかなりの痛手になっている。
	通信会社(営業担当)		販売量の動き	・マンションへのインターネット回線販売は7月から減少している状況で、売上が減少している。
その他レジャー施設(経営者)	来客数の動き		・ボーナスが出ても、来店回数は少なくなっており、使う金額も少なくなっている。	
悪くなっている	-	-	-	-
企業 動向	良くなっている	-	-	-

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
関連	やや良くなっている	出版業（経営者）	取引先の様子	・前は顔を合わせると「景気が悪い」という話になったが、それがほとんどなくなっている。
		輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・ハイヤーの受注量は思わしくないが、タクシーの受注量は増加してきている。
		金融業〔証券〕（営業担当）	取引先の様子	・現在では急激な円高や株安等による影響はさほどみられていない。また、中越沖地震による一部メーカーの操業停滞についても、相応なりカバーにより、最終価格への影響は感じられない。
		卸売業〔機械器具〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・毎年8月納期の受注が今年も入ってきたためである。
	変わらない	出版業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・徐々に書籍の新刊で重版を重ねる商品が出て活気付いてきたが、定期雑誌、特にブランド誌の広告収入の落ち込みが激しく、発行部数、実売部数も前年同期より落ちている。
		輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・各荷主からの受注は漸増しているが、燃料高騰によるコストアップで景気は横ばいである。
		卸売業〔機械器具〕（経営者）	取引先の様子	・問屋筋の話では、全体に受注量が減っているが、納期が短く、メーカーの在庫が少ない商品になると要求に応えられず苦労している。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・ガソリンの高騰により、特に運送業を営んでいる会社は経営が圧迫されている。また、一般の会社で車の台数が多いところも悩みの種である。
	やや悪くなっている	通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・年度当初に比べて見積書の提出件数が減ってきており、受注額も計画値を大きく下回っている。
		金融業〔証券〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・リスク回避である。
	悪くなっている	卸売業〔繊維・衣服等〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・毎年夏場は売上が少なくなるので、3か月前と比べると悪い。

4 (3) 景気の先行きに対する判断理由

(- : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	百貨店（総務担当）	・現状は踊り場とみているものの、今後の秋冬商戦に向け、しっかりと商品提案を行い、消費行動に結び付けていきたい。
		百貨店（販売促進担当）	・8月は夏物が売れ始め、少しずつだが景気は良くなってきている。特にビールなどの酒、飲料水などの売行きが良く、先行きにも期待している。
		スーパー（店長）	・今は夏の暑さが原因で落ち込んでいるが、秋になればある程度は回復する。
		コンビニ（店長）	・現状をみると、少しずつではあるが来客数、客単価が上昇している。このままいけば、緩やかに売上アップが期待できるため、やや良くなる。
		高級レストラン（スタッフ）	・2、3か月先の大きな宴会予約も入ってきているので、悪くない。
		都市型ホテル（広報担当）	・秋からビジネス客が動くので、客室の稼働、レストラン利用等、期待している。
		旅行代理店（営業担当）	・衆議院選挙があったら客足は鈍ってしまう。
	変わらない	一般小売店〔靴〕（営業担当）	・セール品であっても不必要な物は買わない状況は以前と変わらない。必要な物はプロパーでも購買する傾向はある。
		百貨店（営業推進担当）	・同じエリアに大きな商業施設ができ、一時的に来客数の増加につながると思われるが、根本的な改善にはつながらない。
		百貨店（広報担当）	・8月は売場のリニューアル、大きな催物があり、売上の伸びが見込めるが、通常の商売だけでは業績の向上は難しい。
		スーパー（店長）	・食品中心なので、2～3か月の間に大きな変化はない。中国産関連の商品が全く売れなくなり、安心、安全、信用が重要なポイントになっている。
		コンビニ（経営者）	・2～3か月で良くなるとは思えない。
		衣料品専門店（店長）	・商品の入替えにより価格帯が現在より上がるので、買い方が慎重になり、「買わなくてもあるもので間に合わせる」もしくは「値下げするまで待つ」という人が増える。一方、根強いファンもいるので、差し引きでは変わらない。
		衣料品専門店（店長）	・住民税も上がり、消費にもマイナスの面があり、現状維持が精一杯である。
		高級レストラン（経営者）	・良くなるように望むところではあるが、樂觀できない。例年だと10月以降にはふぐなど高額コースが多くなるが、価格競争も激しくなることを想定すると、付加価値の部分でどれだけカバーできるか不安にも感じる。
		一般レストラン（経営者）	・来客数及び購買欲の低下などで、これからもあまり景気が良くなることは期待できない。
		都市型ホテル（経営者）	・一部の企業の景気は良いかもしれないが、世間全体が良くなっているとは思えない。
		競馬場（職員）	・ここ最近の動向から、急激に変化する要素がなく、現状維持が目標である。
		その他レジャー施設（経営者）	・今、店としては非常に苦しい状態だが、これ以上は悪くならないだろうし、季節的に涼くなればまた希望の持てる月も来る。
	設計事務所（所長）	・現状維持で将来についても変わることはない。	
	やや悪くなる	一般小売店〔和菓子〕（経営者）	・株価の乱高下や政治の混乱により、一時的であるかもしれないが悪くなる。
		一般レストラン（経営者）	・5、8月は1年を通じて一番良い月なので、9、10月はどうしても悪くみえる。
		通信会社（営業担当）	・株価下落の影響で、客の反応も鈍くなり販売も伸びない。
	悪くなる	-	-
企業 動向 関連	良くなる	卸売業〔繊維・衣服等〕（営業担当）	・秋物の現品が動き始めるためである。
	やや良くなる	出版業（経営者）	・都心の中央区は元気だが、田舎は瀕死状態であり、富の蓄積がアンバランスである。
		輸送業（従業員）	・業界全般にタクシー受注量は上向きになっており、個人受注は堅実である。
	変わらない	建設業（営業担当）	・建設業は、低い入札額での落札というなか、メーカーの材料等や下請業者の値が下がらず、元請業者だけが苦労する状況になっている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信業（営業担当）	・客からの引き合い自体は特に目減りした印象はないが、受注はおろか見積書の提出まで至る案件の数も伸び悩んでいる。
		金融業〔証券〕（営業担当）	・米国のサブプライムローンの信用悪化による影響は、現状の株安、金利安（債券高）、ドル安（円高）として反映されているが、今後更に各論において影響を及ぼすものと考えられる。例えばサブプライムに関して言えば、これらに係るデリバティブの受け方となっている外銀の信用悪化による本邦金融機関が保有するデリバティブ商品の評価悪化や同様の理由による分配型投信への影響、また国内不動産市場の資金循環についても相応の影響が予想される。ただ、これらの示現には時間を要することや悪い意味で顕在化しにくいことを考慮し、現状維持とした。
		卸売業〔繊維・衣服等〕（経営者）	・基本的に衣料に関しては、たんすの中にある物で間に合わせるという姿勢である。
		卸売業〔食料品（鮮魚）〕（経営者）	・中国経済の伸びで日本は押される。
		卸売業〔機械器具〕（経営者）	・現在の状況を良くする要因も悪くする要因もない。
		広告代理店（営業担当）	・受注の見込みが悪い。
		その他サービス業〔情報サービス〕（経営企画担当）	・取引先や営業担当が夏休みに入り、案件の進みが悪く、業務スタートが遅れると見込んでいる。
	やや悪くなる	新聞業（営業担当）	・2か月先の受注動向が良くない。
		出版業（営業担当）	・重版を重ねる書籍が出てきてはいるが、雑誌、特に月刊誌や週刊誌の下落傾向は続いており、今後2～3か月は全体では悪くなる。
		印刷業・製本業（総務担当）	・原油高による悪影響である。
		印刷業・製本業（経営者）	・石油の値上がりにつき、仕入先には認められたものの、最終ユーザーに値上げをする元気が出ない。
		輸送業（営業担当）	・8月から燃料価格が更に高騰したため、今後2～3か月は業界の景気は低下していく。
		通信業（営業担当）	・自民党参院選（内閣改造）の結果、株安、原油高による。
	金融業〔証券〕（営業担当）	・株価、受注状況の改善は考えられるものの、景気は疑問視している（直近の連鎖株安、円高の大幅調整の余波、反動による消費手控えも考えられる）。	
	卸売業〔機械器具〕（営業担当）	・8月は結構大きな受注があったので、10、11月が悪いわけではないが、今月よりは下回る。	
	卸売業〔機械器具〕（従業員）	・公共事業における価格競争の加熱状況が改善されず、受注機会が減少している。	
	経営コンサルタント	・中小企業のボーナスが増えていないので、消費は上がらない。	
悪くなる	-	-	

(別紙) 調査客体の分野・業種別人数構成

分野	業種	調査客体数 (人)	
合計		50	
家計動向関連	小売関連	25	
	商店街・一般小売店	13	
	商店街代表者	2	
	一般小売店経営者・店員	0	
	百貨店	2	
	百貨店売場主任・担当者	5	
	スーパー	5	
	スーパー店長・店員	2	
	コンビニエンスストア	2	
	コンビニエリア担当・店長	2	
	衣料品専門店	2	
	衣料品専門店経営者・店員	2	
	家電量販店	0	
	家電量販店経営者・店員	0	
	乗用車・自動車備品販売店	0	
	乗用車・自動車備品販売店経営者・店員	0	
	その他小売店	0	
	住関連専門店経営者・店員	0	
	その他専門店経営者・店員	0	
	その他小売の動向を把握できる者	0	
	飲食関連	4	
	高級レストラン経営者・スタッフ	2	
	一般レストラン経営者・スタッフ	2	
	スナック経営者	0	
	その他飲食の動向を把握できる者	0	
	サービス関連	7	
	旅行・交通関連	3	
	観光型ホテル・旅館経営者・スタッフ	0	
	都市型ホテル・旅館経営者・スタッフ	2	
	旅行代理店経営者・従業員	1	
	タクシー運転手	0	
	通信会社	2	
	通信会社社員	2	
	レジャー施設関連	2	
	観光名所・遊園地・テーマパーク職員	0	
	ゴルフ場経営者・従業員	0	
	パチンコ店経営者・従業員	0	
	競輪・競馬・競艇場職員	1	
	その他レジャー施設職員	1	
	その他サービス	0	
	美容室経営者・従業員	0	
	その他サービスの動向を把握できる者	0	
	住宅関連	1	
	設計事務所所長・職員	1	
	住宅販売会社経営者・従業員	0	
	その他住宅投資の動向を把握できる者	0	
	その他家計の動向を把握できる者	0	
	企業動向関連	農林水産業従業者	25
		鉱業経営者・従業員	0
		製造業経営者・従業員	0
食料品製造業		6	
繊維工業		0	
家具及び木材木製品製造業		0	
パルプ・紙・紙加工品製造業		0	
出版・印刷・同関連産業		6	
新聞業		2	
出版業		2	
印刷業・製本業		2	
その他出版・印刷・同関連産業		0	
化学工業		0	
石油製品・石炭製品製造業		0	
プラスチック製品製造業		0	
窯業・土石製品製造業		0	
鉄鋼業		0	
非鉄金属製造業		0	
金属製品製造業		0	
一般機械器具製造業		0	
電気機械器具製造業(精密機械を含む)		0	
輸送用機械器具製造業		0	
その他製造業		0	
非製造業経営者・従業員		19	
建設業		2	
輸送業		2	
通信業		2	
金融業		2	
不動産業		0	
卸売業		7	
繊維・衣服等		2	
飲食品		1	
建築材料、鉱物・金属材料等		1	
機械器具		3	
その他卸売業		0	
サービス業		4	
広告代理店・新聞販売店[広告]		1	
司法書士・経営コンサルタント・会計事務所職員等		1	
コピーサービス業		0	
その他サービス業		2	
その他非製造業	0		
その他企業の動向を把握できる者	0		